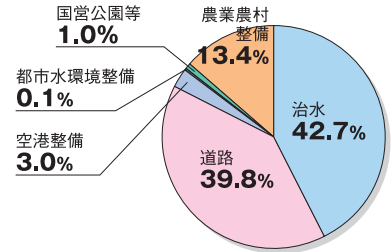


令和7年度 札幌開発建設部事業費総括表

(単位=百万円)

事 項	予 算 額	事 項	予 算 額
治 水	41,540	国 営 公 園 等	1,019
道 路	38,754	農 業 農 村 整 備	13,016
空 港 整 備	2,960		
都市水環境整備	64	合 計	97,353

注) 1. 農業農村整備を除き、工事諸費は含まれていない。
2. 四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。



防災に関する地域支援

札幌開発建設部は、「安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくり」を目指し、激甚化・多様化する災害への対応と社会基盤の形成を図るため、災害発生時における地域支援や地域防災力向上などの様々な取組を行っています。

防災体制の強化

- 重要水防箇所の周知や合同河川巡視などを実施し、水害の防止や流域住民の安全確保を図ります。
- 関係者が情報を共有し共通認識に基づいて総合的な地域防災対策を実施します。
- 防災訓練の相互参加や札幌開発建設部の訓練への参加などを通じて様々な種類の防災訓練の支援を行います。
- 講習会等を通じて、地域の防災に関する情報について、職員が持つ知見を交えて説明・紹介を行います。
- 防災意識向上の取組支援として、東日本大震災、北海道胆振東部地震に関するパネル、映像等を貸出します。

防災情報の提供

北海道開発局の河川・道路管理用光ファイバと防災関係機関が保有する光ファイバを相互接続した広域防災情報ネットワーク「防災情報共有システム(D-sys)」を構築しています。札幌開発建設部管内で接続している地方公共団体は21市町村、関係機関は5機関となっています。(令和7年3月末現在)

防災情報共有システム(D-sys)

河川・道路監視カメラ及び気象情報、交通規制情報の一元的把握により、地方公共団体等への関係機関の的確な状況把握や迅速な意思決定を支援

防災情報共有システム(D-sys)画面(CCTVカメラ選択表示画面)▶



TEC-FORCE(緊急災害対策派遣隊)及びMAFF-SAT(農林水産省サポート・アドバイス・チーム)

1.リエゾン(現地情報連絡員)

重大な災害が発生し、又は発生のおそれがある場合に地方公共団体等に派遣し、(1)災害情報や開発局への支援要望等の情報収集、(2)災害情報の提供、(3)災害対策用機械など、支援物資に関する連絡調整を行います。

令和4年度、令和6年度には、地方公共団体に延べ8名を派遣し活動を行いました。



活動の状況

2.被災状況調査等

大規模な自然災害に際して災害状況の把握や被災地の早期復旧のための技術的支援など、被災地方公共団体の支援を迅速に実施します。

令和6年1月に発生した石川県能登半島地震、9月に発生した大雨に伴う支援のため、北陸地方整備局管内及び北陸農政局管内の自治体へTEC-FORCE隊員を延べ194人・日、MAFF-SAT隊員を延べ47人・日派遣し活動を行いました。(令和7年3月末現在)

3.災害対策用機械

災害発生時には北海道開発局が保有する災害対策用機械を速やかに出動させ被害の最小化を図ります。これらの災害対策用機械は地方公共団体の要請に基づき貸与することが可能です。令和4年は、国道276号美笛峠の土砂災害に伴う遠隔操作機械(バックホウ)等を派遣したほか、令和6年は高病原性鳥インフルエンザ発生に伴う夜間の防疫作業を支援するため照明車を派遣しました。



リエゾン活動状況(江別市)



ドローンを活用したTEC-FORCE被災状況調査の活動状況(石川県輪島市)



土砂除去状況(遠隔操作機械、照明車)(国道276号美笛峠)